



ロータリーの良さ

東京RC会員 山本 爲三郎

ロータリーは出席をやかましく言う。また全員の構成が一人一業とは理解できぬ。さらに歌をうたうのはおかしい。など、ロータリーについての批判を聞くことがあるが、私は何時もロータリーについて次のように云っている。

出席については、普通のクラブは大體クラブハウスがあり、そのハウスに人が集まっているが、ロータリーは、たゞ人の集るのが目的ではない、奉仕の精神をもつ人々の結集が条件なのである。すなわち出席は親睦をはかり自己の職を通じて奉仕をするため、一人でもよい友人を得るために厳格なのである。

一人一業については、奉仕をするため廣く各業界からの知識を必要とすることによるが、私の経験によれば、一人一業の場合、例會でキタンなく自己の属している業界のことなど話せるが、もし同業者が一人でもいと、そのようにはいかないことがあり、熱が下ると言つた現象がうかゞわれることなどあつた。奉仕は理窟ではわかるが、感情と言うものも考えなければならぬ。ゆえに全體が親しくなつて奉仕をするためには一人一業が最も適しているのである。

歌をうたうことについては、議論が沸騰した場合、その中の一人が Song と言つて立ち、全員がこれに和して歌をうたうと、何時の間にか緊張した雰囲気消える。これが歌の効用であり、丁度お經のごとくたゞ一つの言

葉の流れに全體がとけこむからである。こう考えると歌は意義がないことはない。

ロータリーの Emblem を胸にしている人は、その土地の人間的に質のよい、奉仕精神をもつた人と云え、一見して舊知の親しみを覚えるのである。ゆえに職業分類を無理につけて全員を選ぶことなく、その人が入會することによりロータリーが益し、フレンドシップがますます、人間的つながりを考えて行うべきであろう。また食事の時間はできるだけ短かくして、お互の話す餘裕をつくることにすれば親しみがまし、友情がふかまるのではなからうか。

私のロータリーとのつながりは、大正11年ニューヨークに居たおり、友人と二人で11月22日ホテルマカルピンのニューヨーククラブに、大阪クラブが11月17日誕生したニュースをもつて訪れた時からであり、歸朝後大阪クラブのメンバーとなり、昭和11年東京に移り現在に到るアクティブメンバーとしては、ロータリーで古いと云われている。今日まで30餘年間にわたり親しくお世話し、また親しくロータリーにお世話いたゞいでいる。

ロータリーの良さについては、数えれば枚舉にいとまらないほどである。